

(大口市平出水字日東)

**位置と環境**

朝日岳東部山地の標高約520m、朝日岳東部山地の南側傾斜に立地する。日東公民館付近に多量の黒曜石礫の露頭がある。黒曜石原産地および旧石器時代石器製作遺跡である。南西約2kmには上場遺跡が所在する。上場遺跡及び出水地方の先史時代に見られる黒曜石は、この日東の黒曜石と同質で気泡が多く粗質なものである。

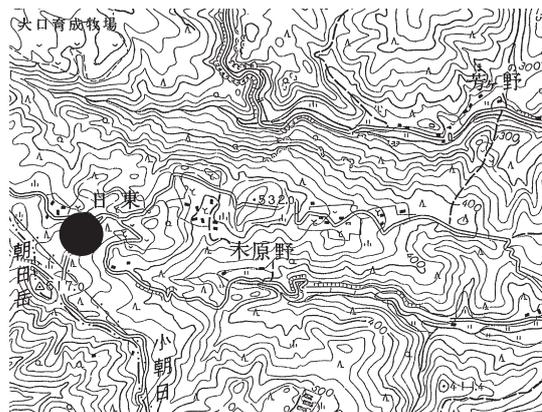
**調査の経緯**

昭和40年、上場遺跡の発掘中に多量の黒曜石を池水寛治が発見した。その結果、原産地と確認され、昭和47・48年には、池水寛治・出水高校考古学部によって発掘調査が行われた。

**遺物と遺構**

出土遺物は、粗製ナイフ形石器、尖頭器、スクレイパー、石刃、切断剥片、石核、石鏃、敲石などがある。砂岩製敲石とともに大量の碎片・剥片が集中して見られることから、石器製作跡と推定される。

原産地における石器製作は任意の場所で行われて



第1図 日東遺跡の位置

いるが、敲石等の石器については砂岩など選択して製作を行っている。精製された石器は少なく、折損したナイフ形石器などが製作跡にみられた。

**特徴**

黒曜石原産地であり、石器製作跡や上場遺跡や周辺遺跡との交易の関係など重要な遺跡である。

**資料の所在**

出土遺物は、出水市教育委員会で保管されている。

**参考文献**

出水市1968『出水郷土誌』

(牛ノ瀨修)



写真1 日東遺跡遠景 (西から)